

多彩な群馬の水辺空間

— 「水と地域づくり」の歴史・文化・つながり—

群馬県の水辺の特徴

- 内陸の海なし県
- 中央部を貫く利根川
- 山間部から関東平野が広がる平野部まで変化に富む
- 歴史や文化を育み、人々をつなぐ水辺空間

国際的に評価されている群馬の水辺

- ラムサール条約に3カ所が登録

ラムサール条約とは

1971年にイラン・ラムサールで開催された国際会議で採択
湿地に関する条約で日本は1980年に加入

3つの柱

保全・再生、ウィズユース（賢明な利用）、交流・学習

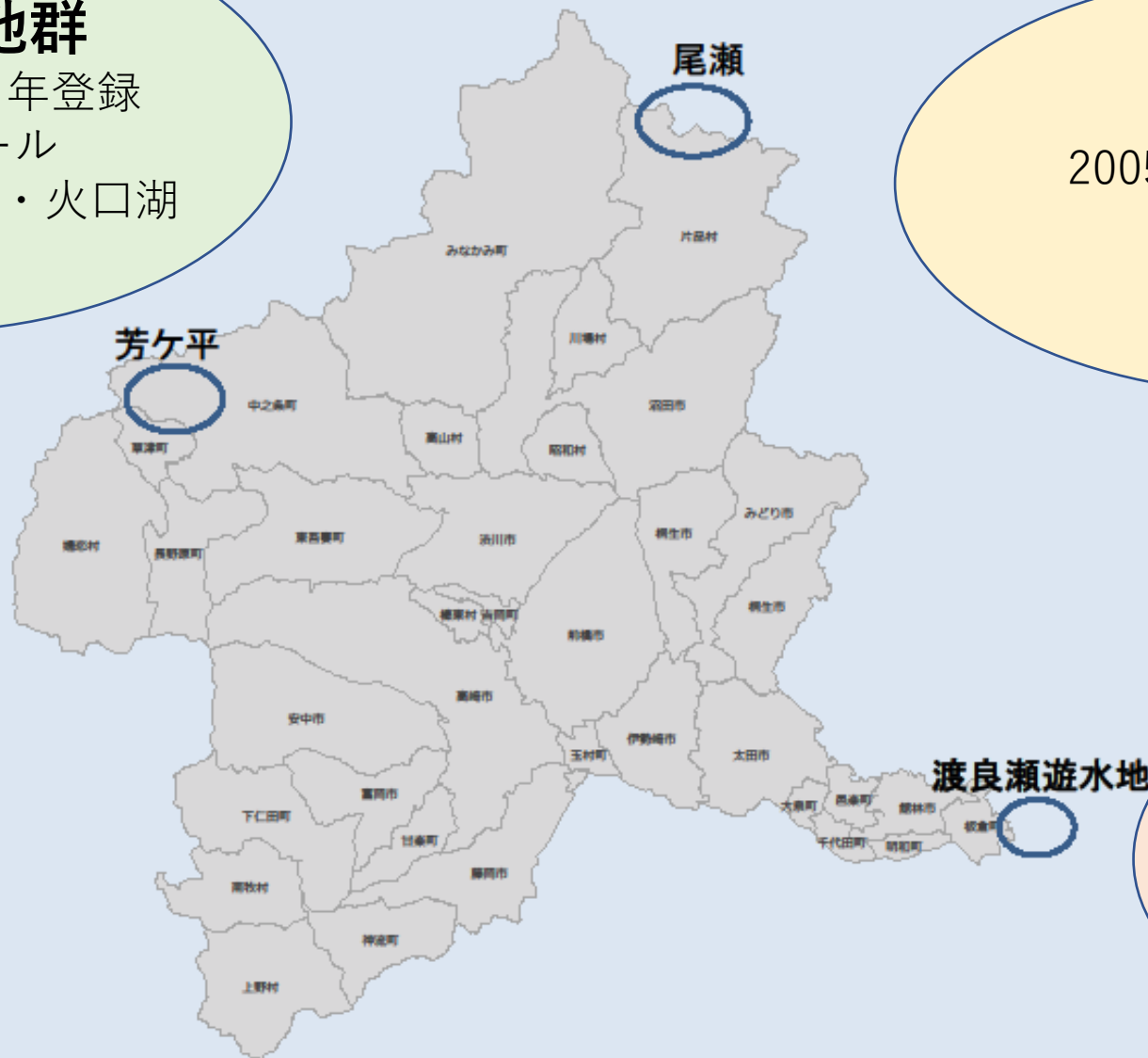
条約湿地の数

世界に2429、日本は52カ所

群馬県内の条約湿地

芳ヶ平湿地群

2015（平成27）年登録
887ヘクタール
中間湿原・淡水湖・火口湖



尾瀬

2005（平成17）年登録
8,711ヘクタール
高層湿原

渡良瀬遊水地

2012（平成24）年登録
2,861ヘクタール
低層湿原・人工湿地

尾瀬ヶ原



本県と福島、新潟にまたがる国内最大の高層湿原
ごみ持ち帰り運動など自然保護活動の原点

春を迎えた尾瀬



尾瀬学校



県内の小中学生が尾瀬の自然を体験しながら環境について学ぶ場として2008年スタート
利用減少やコロナの影響などで本年度から事業見直し

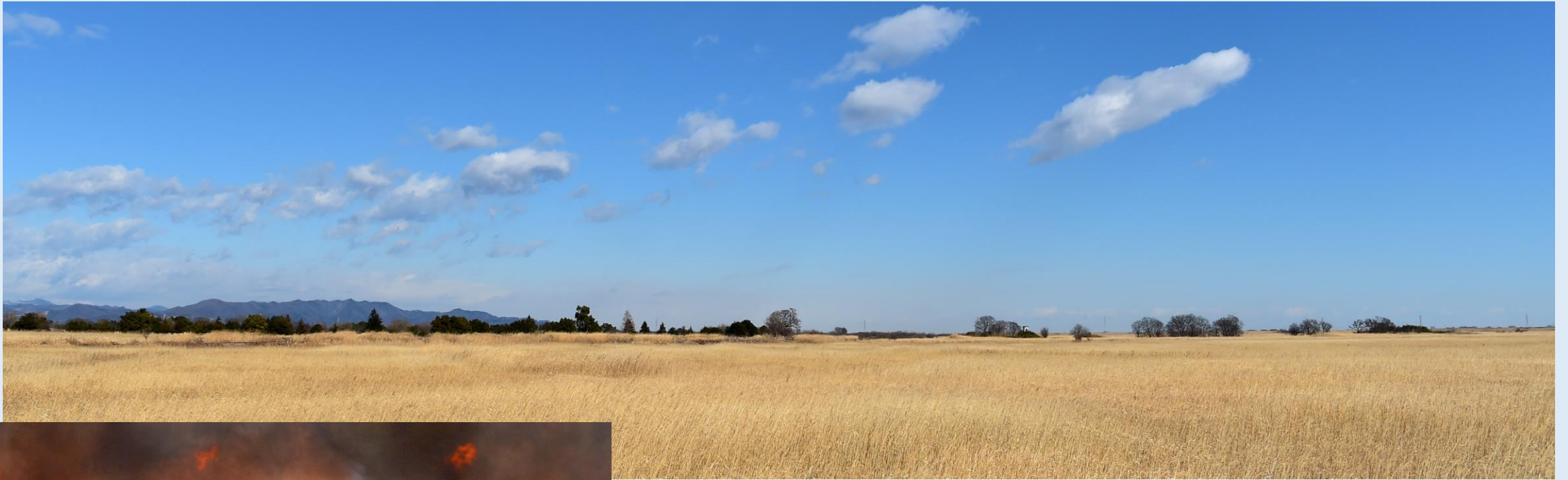


渡良瀬遊水地

関東平野の中央に位置し、本県と茨城、栃木、埼玉にまたがる

周辺は度重なる水害に見舞われてきた地域

足尾銅山の鉱毒被害対策として、谷中村を廃村にし、遊水池が造られた



本州最大級のヨシを主体とする湿地が広がっている

毎年3月には春を告げるヨシ焼きが行われ風物詩に

多彩な動植物を観察できる

トネハナヤスリ、タチスミレなどの
生息地

オオヨシキリ、チュウヒなどの渡来
地

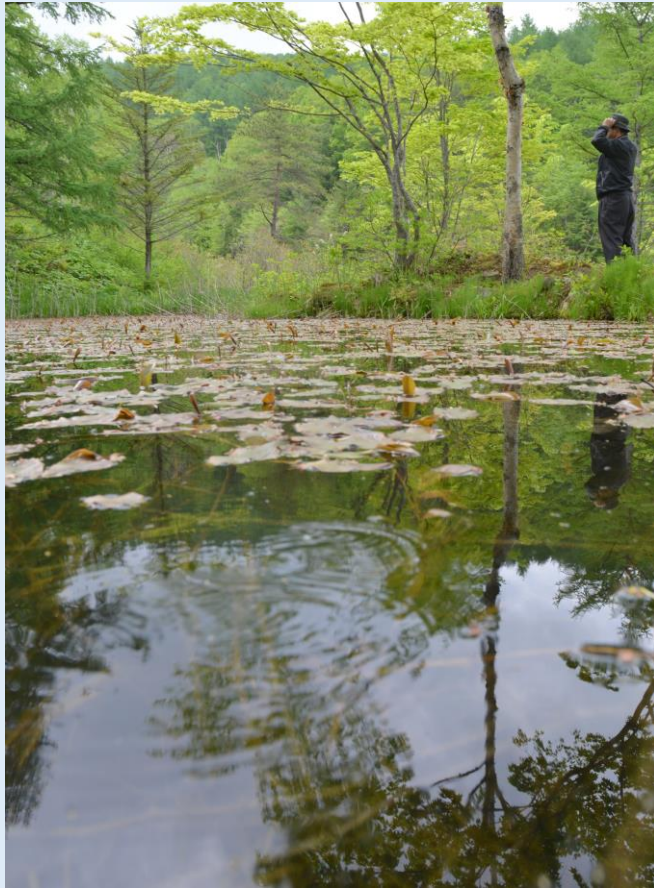
昨年、国の天然記念物コウ
ノトリのひな2羽が誕生。
ひなは今年も雄と雌の2羽
が生まれ、雄は「りょう」、
雌は「のぞみ」の愛称が決
まった



芳ヶ平湿地群



火山性の特異な特徴を有する湿地群（草津白根山の火山活動により形成された難透水性土壌、凹地と火口に発達した中間湿原、淡水湖、火口湖）



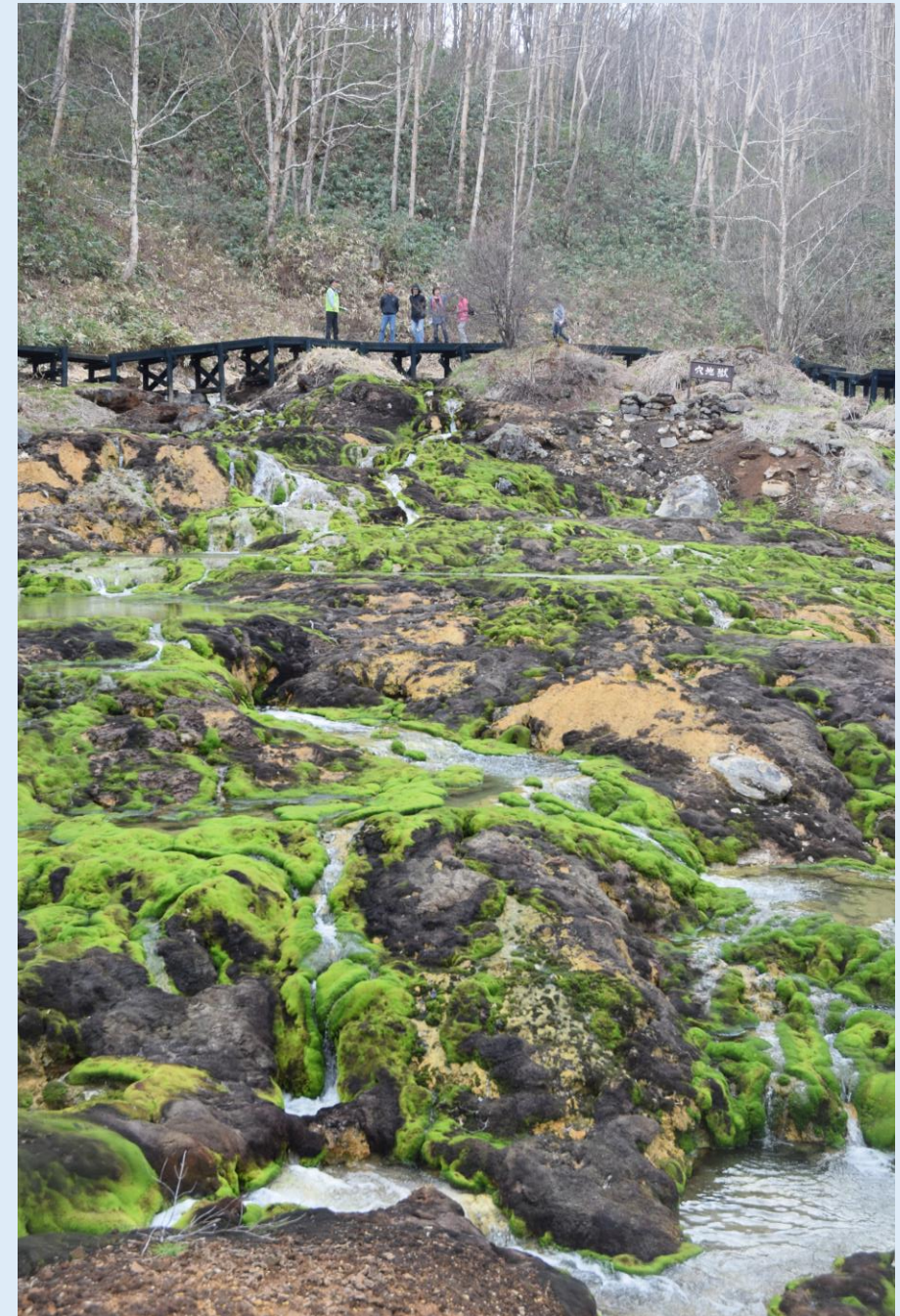
日本固有種の**モリア
オガエル**の最高標高
の繁殖地 = 渋峠ホテル
に隣接する塔の池

チャツボミゴケ公園

強酸性の水辺にしか育
たないチャツボミゴケ
の群生は東アジア最大
級

一帯はかつて群馬鉄山
として鉄鉱石を採掘

2017年、国の天然記念
物「六合チャツボミゴ
ケ生物群集の鉄鉱生成
地」に指定



水辺を生かした地域づくりの事例

里沼（SATO-NUMA 「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化

館林市が提唱し2019年に文化庁の日本遺産に認定

利根川と渡良瀬川にはさまれた館林には茂林寺沼、多々良沼、城沼、近藤沼、蛇沼の5つの沼が残る

さまざまな動植物が生息し、水を求めて人々が集まったきた沼は、自然と人が共生し、歴史文化を育んできた

人々の暮らしに身近な「里山」をヒントに、日本の原風景として「里沼」を新たに価値づけた

ストーリー性を持たせてアピールしているのが特徴

人との関わり方に特色があり、「祈り」「実り」「守り」がキーワード



茂林寺沼 = 「祈りの沼」

市南部にあり、周辺には関東平野に残る数少ない低地
湿原が広がる

600年前に開山した茂林寺に
隣接

城沼 = 「守りの沼」

市中央部にある細長い沼

西岸に館林城が築かれ、江戸期には人を寄せ付けず、外堀の役目を果たした

南岸には国指定名勝「躑躅ヶ岡」がある



多々良沼 = 「実りの沼」

市西北部にあり、平安時代に踏鞴（たたら）製鉄が行われたことにちなむ

中世期に用水が開削され、米麦の二毛作が盛んになり、肥沃な穀倉地帯を育んだ



多彩な顔を持つレジャースポットの利根川



上流部のみなかみではラフティング（写真上）やキャニオニング（同右）を楽しめる



水面が広がる下流部ではウィンドサーフィンなどの水上スポーツが盛ん＝写真は渡良瀬遊水地